

平成30年度第1回 まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会会議要旨

日時 平成30年7月6日（金）

午後 6時30分～8時15分

場所 宮代町役場202会議室

【出席者】

委員：折原昇・佐々木誠・内田正枝・深井義秋・亀井充・菊地正和

渡邊朋子・横江由起恵

事務局：栗原企画財政課長・野口副課長・榎本主幹・立見主任

傍聴者：なし

【会議要旨】

議題（1）～（2）について、事務局から説明し質問や意見を伺った。

（1）まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

（2）総合戦略の平成29年度の取り組みについて

議題（1）まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

【資料①】「宮代町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要」

（事前配布資料）

《資料説明》

佐々木委員：平成29年度地方創生関連交付金活用事業の交付金の内訳は？

事務局：集会所全面展開のまちづくり事業については、ソフト事業に近いが、1,400万円の中には拠点となる集会所の修繕、バリアフリー工事など修繕系の費用も含まれている。国から交付金をいただきながらソフト事業をやるにあたって必要となるハード整備も一体的に進めていきたい。

集荷宅配事業については、人件費等がメインとなっている。

地方創生推進交付金はどちらかというとソフト事業、地方創生拠点整備交付金はハード事業がメインの交付金となっている。

佐々木委員：集会所事業についてはハードも一部あったが、大半がソフトということだが、どのくらいの割合か。また、ソフトというのはどのようなことにお金を使うのか。

事務局：地域敬老会の支援事業に約300万円、施設修繕が約300万円程度、ルールとして、ソフト事業の半分までハード整備に充ててよいことになっている。

佐々木委員：備品の購入もあるのか。

事務局：折りたたみテーブル、脚立、マイクセットなどを今回の交付金で購入している。

佐々木委員：ハード系、備品系は整備すればしばらく使えるが、ソフト系は交付金が終了したらどうしていくのか。持続性はどうか。

事務局：これを機会にハード整備して、ソフト事業はさほどお金がかからないので、これを元手に継続していくという考え。

深井委員：自分の町内会では、地域敬老会を毎年公民館でやっているが、その際に使う備品や弁当や飲み物、イベント謝礼などに地方創生推進交付金が出ているのか。

事務局：国からの補助金を原資に、町から地域に出している敬老会運営補助金に充てている。会場使用料、弁当代、謝金の経費にも使っている。

深井委員：資料に事業費1,418万円と書いてあるが、毎年事業費は同じ位の額か。

事務局：開催地域の増加や、案内状送付対象者の増加により、少しずつ増えている。

深井委員：町の集会所以外で地域交流サロンを作った場合、補助金の対象となるのか。

事務局：対象となる。場所というより、活動がいろいろな地域で行われることが大事なので、町としては支援している。

議題（２）総合戦略の平成29年度の取り組みについて

【資料②-1】「宮代町まち・ひと・しごと総合戦略・平成29年度進捗状況」

【資料②-2】「宮代町まち・ひと・しごと総合戦略・平成29年度進捗状況資料集」

（事前配布資料）

＜資料説明＞

佐々木委員：インターネット放送局の特派員は町から人件費が出ているのか。

渡邊委員：インターネット放送局立ち上げ当初は完全に無報酬でやっていたが、取材や編集など特派員の持ち出しが多いということで、サイトにアップされた動画に対して経費相

当額を支払っている。

佐々木委員：どういう方が特派員になっているのか。

菊地委員：若い女性の方もいるが、定年退職した高齢の方がほとんど。現在のメンバーは8人。

佐々木委員：今ユーチューブが盛んでいろいろな動画が世の中にあるが、世代によって発信の仕方や作り方が違う。子育て世代や、外から人を呼びたい場合に女性や若い方の発信があるとより生きてくると思うが、引退した方ばかりだと偏りが出てしまうのではないのか。

菊地委員：年配の方が子育てのイベントや子育てひろばの取材をしていて、結構な本数がサイトにアップされている。女性の方も女性目線でイベントを取材している。町の中でいろいろと文化的なことをやっているの、そういったことは発信できている。

佐々木委員：取材先は自分で見つけていくのか。

菊地委員：月に1回の定例会の中で、町から情報を得たり、自分たちで探してくることもある。何度か取材するうちに、直接依頼がくることもある。

佐々木委員：窓口は進修館にあるのか。

菊地委員：進修館の中に事務局があり、取材の申し込みや承認を取ったりしてくれている。

深井委員：インターネット放送局というのは、動画サイトを作って投稿するのか。

事務局：ユーチューブの中に専用のページを作り、そこに投稿している。

深井委員：動画サイトを作って収入を得ている人がいるが、それとは違うのか。

事務局：同じサイトなので、広告収入が得られるようになればすごくよい。何かに特化した動画を作ると注目を浴びることも可能ではないか。最近の若い人の中にはテレビは見ずに、好きな時に好きな動画をインターネットで見るといふ人がいると聞く。電車に乗っている方の半分以上はスマートフォンを見ている。

深井委員：アクセス数が増えるとインターネット放送局は儲かるのか。

菊地委員：収入はない。

佐々木委員：たくさん見てもらって収入が入れば、運営がうまく回していけるということがありえるのではないか。

菊地委員：今のアクセス数は平均して300～500アクセスくらいだが、総合運動公園で元巨人軍の選手の子供向けに野球教室を「元巨人軍が教える投げ方教室」というタイトルでアップしたら、7000～8000アクセスがあった。

佐々木委員：そうすると少し収入が入るか。

菊地委員：自分たちが撮った作品のアクセス数が増えるとうれしいが、ほとんどボランティアでやっている。

深井委員：宮代町に空き店舗と空き家がどのくらいあるか町で把握しているか。

事務局：住居と店舗が一緒になった建物などもあり、数え方が難しいので、把握できていない。商店会の会員数などから見ていくのかと思う。

深井委員：跡継ぎがないなど、廃業する人は増えていて、百間新道、東口商店会など、みんなシャッター通りになってしまっている。空き店舗が多く、シャッター通りだと宮代町のイメージが悪くなる。定住促進を図るのであれば、そういうことを目に見える形でやる必要があるのではないか。

事務局：産業観光課と商工会で連携しながら、空き店舗解消策としてリフォーム補助金、起業創業セミナーなど、いろいろ仕掛けはしている。また、トウブコフェスティバルでは、町外の若い人たちが出店して、町外から若いお客さんがたくさん来ている。トウブコフェスティバルで宮代に来たことをきっかけに住んでみようかな、店を開きたいなという人が少しずつ出てくれば、出店や定住につながると考えている。華々しくはないが、転入してカフェやガラス工房などを始めている人も出始めている。宮代町で店を始めてみようかという全体の雰囲気作りはできてきていると思うが、目に見える形で変わるには、商工会と町でこれからもう少しやっていく必要がある。

折原委員：新規就農者の補助事業の説明を補足すると、農業担い手塾ではこれまで、研修期間3年間のうち、補助が出るのは2年目以降の2年間であった。1年目の生活資金がないと応募できず、これが障害となっていた。新規就農するには住宅を借りたり、生活費が

必要なので、平成30年度から町で独自の施策として、町外から転入して新規就農する人に対しては安定した生活が送れるように、1年目の生活費支援を営農研修奨励金という形で補助することになり、自己資金がない方でも担い手塾に入れるようになった。

事務局：次回は7月13日金曜日7時から開催。いろいろ意見が言えるようなワークショップ形式で意見交換を行う。テーマは農業、商業、市民活動を含めた宮代町の未来の話の予定。

《閉会》